

石川県立美術館だより

平成19年11月1日発行 第289号



片切沈金彫栗鼠文小筆筒 藤井観文

所蔵品紹介 一八四

かたきりちんきんぼりりすもんこだんす
片切沈金彫栗鼠文小筆筒

ふじいかんぶん
藤井観文

明治二十一年（一八八八）～昭和四十八年（一九七三）

昭和三十一年（一九五六）

第十二回日展

幅三十九cm×奥行二十五cm×高二十七cm

扉と側面に栗鼠が描かれている小筆筒。扉を開けると、五段の引出しがあります。栗鼠は輪郭線を単純化し、沈金技法としては、作者が創案した片切彫を使い、独特の立体感で表現されています。この片切彫から、普段はかわいい小動物と感じられている栗鼠の、実際飼育し観察するとわかる、とても敏捷で、活発な動きを巧みに引き出すものとなっています。小筆筒全体の黒と白との面とのバランス、片切彫の栗鼠の質感が洗練された美を感じさせる意匠となっています。

藤井観文氏は明治二十一年輪島市に生まれました。十三歳より沈金の名工三代橋本佐助氏に師事しました。沈金の修業とともに日本画にも力を注ぎ、川合玉堂氏及び安田靉彦氏に師事しました。日本画家として日本美術院展、帝展に入選と活躍し、院友にもなっています。工芸作家としては、昭和十三年第二回新文展に初入選、二十一年には日展特選、二十七年第八回日展で北斗賞を受賞します。三十一年には第三回日本伝統工芸展に出品初入選、その後三十九年文化財保護委員会委員長賞、四十年日本工芸会総裁賞を受賞しました。昭和四十八年に没するまで清新な漆芸作品を発表しました。

*石川県立歴史博物館で展示中

古九谷と石川の工芸Ⅱ

会期／10月16日(火)～11月11日(日)
11月14日(水)～11月30日(金)
会場／石川県立歴史博物館 第二特別展示室

九月三日から改装工事のため休館
していますが、隣の石川県立歴史
博物館第2特別展示室で開催する
コレクション展示の二回目後期で
す。後期は染織、人形、截金部門
で展示替えとなり、染織は毎田健
治作友禅訪問着「爽風」、二代由
水十久作友禅訪問着「むべの花」、
人形は斎藤悦子作「いずみ」、截
金は西出大三作截金彩色油色「花
の合子」を展示紹介します。



截金彩色油色 「花の合子」
西出大三

※会期のうち十一月十一日までは歴
史博物館秋季特別展「石川のお宝
史」開催にともない入館料一般六
五〇円(団体五二〇円)、大学生五
〇〇円(団体四〇〇円)が必要です。
十一月十四日～十一月三十日は歴
史博物館入館料一般二五〇円(団
体二〇〇円)、大学生二〇〇円(団
体一六〇円)が必要です。
(高校生以下はともに無料です)

11月に当館作品が見られる展覧会

◆郷土の美術―石川県立美術館所蔵作品より

石川県輪島漆芸美術館

平成19年10月13日(土)～11月19日(月)

古九谷、再興九谷

近現代工芸

近現代純粹美術

など50点

◆石川県立美術館所蔵 宮本三郎名品展

小松市立宮本三郎美術館
分館 宮本三郎ふるさと館

平成19年9月29日(土)～11月25日(日)

阿修羅
熱叢夢

など11点

◆故郷ゆかりの日本画家たち

小松市立本陣記念美術館

平成19年10月13日(土)～11月11日(日)

虎図 岸駒

八仙人図 橋本関雪

など11点

◆加賀の伝統美 石川県立美術館所蔵名品展

新潟県立近代美術館

平成19年11月23日(金祝)～平成20年1月14日(月・祝)

古九谷

四季耕作図 久隅守景

など129点



静止した刻 鴨居玲(輪島漆芸美術館「郷土の美術」より)

11月の行事

■映画会

日時／11月25日(日)午後1時30分

会場／県立生涯学習センター(3階35号室)

入場無料

●文化庁工芸技術記録映画シリーズ

蒔絵 大場松魚の平文のわざ(32分)

●伝統工芸の名匠

木の生命(いのち)よみがえる

川北良造の木工芸(33分)

●伝統工芸の名匠

西出大三 截金の美(30分)

展覧会回顧

特別陳列 白山を描くー石川・福井の画家たちー

暑かった夏も過ぎ、山々は秋の衣替えの時期に入っています。白山からは初冠雪の便りが届けられ、冬の到来ももう間近です。

さて、この夏、当館では「白山を描く」と題して、白山をテーマにした展覧会を開催しました。これは、同時期に県立歴史博物館で開かれた「石川・福井文化交流展 白山」に協賛した催事であり、石川・福井の近現代の日本画、油彩画の画家 17 名の作品 22 点を集め展示したものです。一口に白山を描くといっても、画家によって表現は様々であり、見る場所、周囲の景物の配置、季節など、それぞれ独自の視点からとらえられています。鶴来、川北、小松、加賀、福井と白山を中心に弧を描くように、画家の立つ位置によって白山の姿は変化し、ことに頂上付近は、御前峰、剣ヶ峰、大汝峰の三つの主峰が見え隠れして、その形を変えています。

また山のみならず、前景に森林、田園、川や湯、集落などを組み合わせるとともに、四季の彩りの変化を加味して、多様に表現されていました。ご鑑賞いただいた方々は、見慣れた白山の自然美をあらためて再発見していただけたのではないのでしょうか。

最後に、本展開催にあたり、ご協力いただきました関係の方々、また会期中、ご多忙の中、ご鑑賞いただきました多くの方々に、あらためてお礼申し上げます。



第37回 文化財現地見学旅行報告

今回は「築城 400 年・彦根城と湖東三山をめぐる」のテーマで滋賀県に行ってきました。

初日に訪れた湖東三山は琵琶湖の東に位置し、龍應山「西明寺」、松峰山「金剛輪寺」、釈迦山「百済寺」からなり、いずれも 1200～1400 年前に創建された国宝や重要文化財を多く抱える天台宗の古刹です。広い敷地に建てられた山城のような仏閣ですので息をきらしながらの見学になりました。また湖東三山といえば紅葉が有名です。シーズンには渋滞でバスが動かなくなるほどですが、今回は文化財の見学がメインということでシーズンを外し、ゆっくりと静かな環境で鑑賞して頂きました。

金剛輪寺では最澄が中国から持ち帰ったという日本最古の大黒天像を公開しており、現在の「大黒様」のイメージとはかけ離れた「武装大黒天」の姿に驚きの声があがっていました。西明寺では国宝三重塔の内部壁画を拝観することができ、そこに描かれた法華経の世界や三十二菩薩の姿にみなさんため息をついていました。最後の百済寺では学究肌のご住職の論理的な説明に感嘆しながら散策。庭園からの眺望は琵琶湖をかすめて、5.5 km 先の比叡山まで広がり、広大なパノラマに息をのむほどでした。

二日目は生憎の雨。まず彦根城博物館で国宝「彦根屏風」を鑑賞しました。博物館の学芸員の方に、博物館の沿革から彦根屏風に至るまで丁寧な解説して頂きました。次の見学地の彦根城では雨の中を物ともせず、一同石段

を登っていきます。ボランティアガイドの関西城郭研究会の方のユーモアあふれるうんちくに耳を傾け、充実した 2 時間を過ごすことができました。昼食後、天寧寺では五百羅漢の様々な表情を堪能した後、一路最後の目的地、向源寺（通称彼岸寺観音堂）へ。国宝十一面観音立像は平安初期密教美術の傑作です。秀麗な面貌や官能的ともいえる立ち姿は圧巻で、みなさんその場を去りがたい御様子で心ゆくまで鑑賞しました。

初日、二日目とも歩くことが大変多く、きついコースでご不便をおかけしました。また天候にも恵まれず、不慣れた案内だったにもかかわらず、素晴らしい文化財の数々に喜んで頂けたご様子にほっと胸をなで下ろした次第です。



金剛輪寺にて

ミュージアムレポート

移動美術展 in 穴水



毎年開催している移動美術展は、本年9月16日から23日まで、穴水町で開催されました。3月に起きた能登半島地震の影響で、当地も多大の被害を被ったことと思われませんが、幸い会場となった、のとふれあい文化センターは展示会場として支障がなく展示することができました。

開催期間は8日間と短く、秋の各種文化行事が行われる頃でもあり、また農家の人たちにとっては稲刈りの忙しい時期と重なってしまいましたが、それにもかかわら

ず1200人を超える多くの人々にご鑑賞いただき、ありがとうございました。とりわけ地元の650人近い小中高校生の皆さんに、日頃あまり見る機会のない美術作品の本物に接していただけたことは、豊かな感性を育むよいきっかけになったことと思われま

す。この経験を通して、さらに美術に親しみ創造力を養ってほしいと期待しています。

なお、本展の開催にあたり、種々ご協力いただいた関係の方々にあらためてお礼申し上げます。



どこでもミュージアム (学校出前講座)

イン 三和小学校



金沢市立三和小学校で、6年生3クラスそれぞれ1時限作品鑑賞授業を行った様子を少し紹介します。

展示作品は全部で14点。画材の説明などをおりませながら対話型の作品鑑賞を行いました。今回対話に使用した作品は「午後 中出信昭作」。児童からは「たくさん描かれているけれど、人が誰も描かれていない放課後、寂しそう」「窓からはいる光、優しそう、暖かく感じる」「奥のほうに階段や扉がある、遠近感が寂しく感じる」と絵から感じたことをたくさんの言葉で表現してもらえ、授業が終わる頃には、全展示作品の中から自分のお気に入りの1点について、それぞれの児童から作品から受けた素直な気持ちを発言してもらえました。

17年度より教育普及事業の一環として「どこでもミュージアム」と題し、学校へ当館の所蔵品を持って行き作品鑑賞を行う「出前講座」を行っています。今回は、9月10日に

限られた時間での作品鑑賞ではありましたが、児童や教師の皆さんからたくさんの感動の言葉を頂きました。ありがとうございました。

イン 河内小学校

10月3日には白山市立河内小学校へ行ってきました。集会室をミニ展示室に変身させ、4～6年生と午後の授業時間で鑑賞授業を行いました。

河内小学校は文化行事として鑑賞授業後には写生会がある学校なので、行事に合わせて風景画を中心に作品鑑賞を行い、その後、自分の好きな作品の前で、簡単に作品の模写をしました。なにが描かれているかよく鑑賞し、模写を行ったのですが、はじめは感想を言うのを恥ずかしそうにしていた児童も、模写をはじめた頃には自分の作品について話すような雰囲気になりました。



休館中は普段より多くの学校にお邪魔します。私たちと学校でたくさんの美術に親しみましょう。

次回の展覧会

石川県立歴史博物館が会場になります

企画展

加賀藩の美術工芸と
芸術院会員・人間国宝

石川県立美術館だより 第289号
2007年11月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>